

問題

消費者行動に関する次の問いに答えなさい。

(1) 無差別曲線（原点に対して凸型の形状）が互いに交わらない理由を，図を用いて説明しなさい。

(2) 必需品を奢侈品の違いを次の用語を用いて説明しなさい。

用語：需要の所得弾力性

(3) 上級財である第 1 財と下級財である第 2 財を消費する消費者を考える。第 1 財の価格が上昇したとき，それぞれの財の需要に与える影響を次の用語を用いて説明しなさい。なお，説明の際には図を用いること。

用語：代替効果，所得効果□

解答のポイント

小問 3 問という例年通りの問題構成であり，(1) がやや書きにくかったかもしれないが，すべて完答が求められるレベルであることから，昨年度に引き続き，平易な出題であったと言えるだろう。

まず，(1) であるが，無差別曲線の定義を述べたうえで，背理法を用いて無差別曲線が交わらないことを説明すればよい。その際，無差別曲線が交わらないための条件として，選好に関する単調性と推移性に言及しておきたいところである。

次に，(2) であるが，字数を稼ぐためにも，必需品と奢侈品の定義を需要の所得弾力性を用いながら，少々丁寧に説明するとよいであろう。

最後に (3) であるが，代替効果と所得効果を図解するとともに，第 1 財は非ギッフェン財，第 2 財は第 1 財の粗代替財になることに言及すれば十分である。もっとも，第 1 財が上級財，第 2 財が下級財であると仮定されていることから，所得効果を的確に作図することが肝要であり，この作図が誤っているようであれば減点は否めないであろう。

なお，(1) と (3) で図を用いなければならないことに鑑みて，解答例では総字数を 900 字程度に抑えることにした。

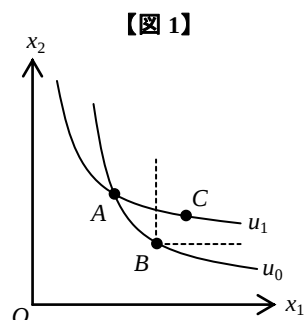
解答例

(1)

2 財，1 と 2 を想定し，消費者の選好に関して単調性と推移性が満たされているとする。このとき，無差別な消費量の組み合わせ (x_1, x_2) の軌跡である無差別曲線が互いに交わることはない。以下，この点を図説する。

図 1 において 2 つの無差別曲線 u_0 と u_1 が点 A で交わっているとする。点 A と点 B は無差別曲線 u_0 上に存在することから互いに無差別であり，同様に点 A と点 C も互いに無差別である。したがって，推移性より，点 B と点 C も無差別となるはずであるが，点 C は点 B に比べて 2 財の消費量が多いことから，単調性より点 C は点 B よりも選好されることとなり，矛盾が生じる。

このような矛盾が生じたのは無差別曲線が交わると想定したためである。すなわち，無差別曲線が交わることはない。



(319 字)

(2)

必需品とは需要の所得弾力性が1未満の正値をとる財であり、奢侈品はそれが1より大きい値をとる財である。以下、この2財について説明する。

まず、需要の所得弾力性とは、所得1%の上昇に対する需要量の増加率であるが、価格を一定とすれば所得1%の上昇に対する支出額の増加率と捉えることができる。したがって、必需品は支出額の増加率が所得の増加率を下回る財であり、所得の増加に伴い所得に占める支出額の割合が低下する財である。対して、奢侈品は支出額の増加率が所得の増加率を上回る財であり、所得の増加に伴い所得に占める支出額の割合が上昇する財である。

(265 字)

(3)

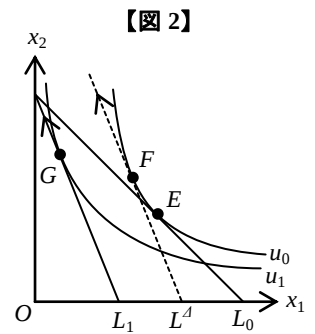
第1財の価格上昇は、第1財の需要量 x_1 を代替効果、所得効果のいずれにおいても減少させ、第2財の需要量 x_2 をいずれの効果においても増加させる。以下、この点を図説する。

図2において、第1財価格の上昇により、予算線が L_0 から L_1 へ、効用最大化点が点 E から点 G へ変化するが、 L_1 と平行で無差別曲線 u_0 に接する補助線 L^d を引き、その接点を F とすれば点 E から点 F への変化が代替効果、点 F から点 G への変化が所得効果である。

まず、代替効果により、第1財の需要量が減少し、第2財のそれは増加する。次に、所得効果であるが、第1財は上級財であることからその需要量は減少する一方、第2財は下級財であることからその需要量は増加する。すなわち、第1財は非ギッフェン財、第2財は第1財の粗代替財であると結論づけることができる。

(341 字)

[総字数：925 字]



TAC 生はココで解けた！

(1) については、経済系専門記述対策テキストレジュメに類題が収録されていないため、やや書きづらかったのではないかと推察されるが、(2) は 2013 年度に出題された (1) の類題であり、経済系専門記述対策テキストレジュメに解答例も収録されていることから、十分完答できると思われる。

加えて (3) も代替効果と所得効果の作図問題と捉えれば、2010 年度出題の (2) および 2013 年度出題の (2) の類題であり、やはり経済系専門記述対策テキストレジュメに解答例が収録されていることから、完答は決して難しくはないはずである。